

令和7年度 東京都立東大和高等学校 学校経営報告

校長 加藤 武

1 教育活動の取組

I 学習指導

目標 1、授業力の向上 2、基礎基本の定着 3、主体的学習意欲の向上 4、学習習慣の定着

方 策	教育活動の取組
① ICT機器やソフトウェア、一人1台端末を積極的に活用し、生徒が主体的・対話的で深い学びを実践する。	○ICT推進委員会より一人1台端末の利用を増やす策を議論したが、導入に至らなかった。ICT機器やリアテンドメントの活用は広がった。
② 観点別評価に伴い、教材の共通化や評価材料を増やす等、教科全体で指導と評価の一体化を進める。	○一部の科目で観点別評価が充分でなかったが、2学期より修正した。
③ 全ての科目で授業アンケートを組織的に実施し、生徒の状況に応じて授業を工夫する。	○全科目の授業評価アンケートを実施し、授業担当者にフィードバックを行った。
④ 教員相互の授業見学を各人が学期に1回以上、特に教科内での授業見学を積極的に行い、授業改善を推進する。5教科は「指名制による授業研究」または指導教諭の模範授業に1回以上参加する。	○相互授業見学の学校全体での回数は増加した。特に若手教員の研究授業を参観する教員が増加した。 ○「指名制による授業研究」は学校全体で2名しか参加しなかった。
⑤ 模試を利用し過去の問題に取り組ませるとともに、模試の振り返り指導を行い、基礎基本の定着を図る。	○授業における模試の活用は進んだ。 ○模試の問題分析や結果分析を行う教員が増えた。
⑥ 英語検定の受験を積極的に推奨し、スコアアップと合格者増加に向けた指導を行う。	○英検を全員受験を合わせ延べ906名が受験した。 ○授業の中で英検への対策が進んだ。
⑦ スタディサプリやオンライン英会話等を活用するなど、主体的に学ぶ態度と総合的な英語力を育成する。	○英語科が組織的に、放課後等の時間を使って二次対策を行った。
⑧ 図書館の利用を高め、ビブリオバトルを組織的に実施し、読書活動を推進する。	○国語科主導でビブリオバトルを実施し、発表のレベルが上昇した。図書貸出数は約15%増加した。
⑨ 全学年で定期考査2週間前からの学習の記録を実施し生徒へフィードバックすることにより、自宅での学習（授業外の学習）習慣を身に付けさせる。	○学習時間の記録を計画通り実施し、教務部が取りまとめて生徒や保護者へフィードバックした。考査実施日直前以外の自宅学習時間が少ない状況は、年度後半にやや改善されてきた。

II 進路指導

目標 1、進路指導部を中心とした組織的な進路指導の実施 2、生徒の進路意識の向上

方 策	教育活動の取組
① 進路指導部が作成した3年間を見通した指導計画に基づき、進路指導部と各学年が連携して進路指導に当たる。年内入試対応は全校体制で取り組む。	○進路指導部主体で学年と連携した進路指導を実施できている。進路の手引きを大きく改訂し、学年別の進路シラバスに従って進路指導を行った。
② 1、2年次の指導計画を充実させ、生徒と同内容を保護者へも情報配信し、保護者を巻き込み進路意識を啓発する。1年次からオープンキャンパス等に積極的に参加させるなど具体的な進路目標をもたせ、一般入試を視野に入れさせる。安易な進路選択に流れず、高い目標を目指して取り組ませる。	○年内入試に対し組織的な対応を行った。指定校推薦や公募制推薦は全教員に割り振り、総合型選抜は進路指導部と3学年が中心となり対応した。 ○2年生2学期に第一希望届を提出させた。
③ 3年間の模試計画に従い、進路指導部と各学年が協力して模試を運営する。教科とも連携し、事前・事後の指導を行う。	○全学年の模試を進路指導部主導で実施した。 ○模試分析会を3回実施した。3年7月模試を8/29に、2年11月模試を12/25に、1年1月模試を3/25に実施した。各教科の分析が的確で、情報の共有ができた。
④ 教科で模試を分析し、模試分析会を実施する。教科ごとに問題点を明確にして、授業改善に生かす。	

⑤ 長期休業中の講習を進路指導部が統括し、教科が中心となって講座を設定する。余裕をもって生徒に提示し、積極的に参加させる。	○夏期講習は進路指導部が統括し実施した。夏期講習期間に3年生向けの自習室を確保し、進学指導研究校の予算を活用して大学院生等のチューターを付けた。
⑥ 大学入学共通テスト後の講習を拡充し、生徒の一般受験を支援する。	○大学入学共通テスト後に3年対象の講座を開講した。参加者があったのは10講座であった。
⑦ PT主導で1、2年次「総合的な探究の時間」を計画的に全校体制で実施する。	○総合的な探究の時間はPT主導で実施し、「スポーツ」をテーマとして探究活動を行った。1年生は、1学期ブレ探究、2学期以降は個人探究として探究サイクルを2回転行った。2年生はグループ探究で、代表グループがTIPSフォーラムに参加した。
⑧ 多様な生徒の進路希望に合わせ、就職希望者や専門学校希望者に適切な情報を提供し、個に応じたきめ細かな指導を行う。	○就職希望者や専門学校希望者に対して、面接指導等を行った。就職者は民間1名、公務員（東京消防庁）2名であった。
⑨ 個人面談を計画的に実施する。保護者との面談（三者または二者）を全学年で実施し、家庭との連携を図る。	○保護者との面談を全学年で実施し、実施率が向上した。
⑩ 進路報告会を開催し、進路指導の継続性を図る。	○進路指導部主導で進路報告会を3/23に実施し、53期生の進路状況や指導状況等を詳細に分析できた。

Ⅲ 生活指導

目標 1、基本的な生活習慣の確立 2、交通安全意識の向上

方 策	教育活動の取組
① 挨拶を励行して、コミュニケーションの円滑化を図る。	○1学期は元気に挨拶する生徒が多かったが、夏以降、挨拶が少なくなった。
② 統一した指導により遅刻を減らす。時間を大切に、授業を大切にする、けじめのある学校生活を送らせる。	○教員の立ち番は各学期初めの1週間実施した。 ○1限開始時の遅刻が増えてきた。全学年において遅刻の増加傾向が見られた。
③ セーフティ教室や生徒会活動を通して、「SNS東大和ルール」を認識させ、規範意識の向上を図る。	○SNSによるいじめに類する行為は無かったが、SNSへの不適切な画像投稿があり、全校集会を実施し注意喚起をした。
④ いじめ防止と体罰根絶に向けた取組を推進する。生命尊重と、多様性への理解を深め、豊かな人間性を育む。	○生徒への集会での講話や、教員への研修を実施した。いじめや体罰に関する事案は発生しなかった。
⑤ 自転車通学でのヘルメット着用を徹底し、交通安全意識を高める。	○自転車通学でのヘルメット着用者は1～2割程度で、大きな自転車事故が年9回もあり、救急搬送される事故も5件で、極めて憂慮する状況であった。
⑥ 地域と連携した防災訓練を実施し、防災意識を高める。	○消防署、市役所と連携した大規模防災訓練を3/18に実施し、生徒の防災意識が高まった。

Ⅳ 特別活動・部活動

目標 1、部活動と学習の両立 2、帰属意識の向上

方 策	教育活動の取組
① 生活指導部主導で各行事委員会を運営し、学校行事、委員会活動を推進し、生徒の主体性を伸ばさせる。	○教員の行事委員会は実施せず、生活指導部の各行事担当と生徒の行事委員会が連携し、学校行事を企画・運営した。
② 部活動を奨励し、短時間で効果が得られるような、合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進する。部活動と学習その他が両立できる時間を確保するよう、下校時刻を守らせる。	○下校時間を守る意識がある程度浸透してきた。 ○仮設校舎建築のため11月以降グラウンド部活動が主に学校外で活動するようになり、移動の時間がかかるようになった。

③ 生徒会や部活動を通し、地域と連携した活動を推進する。	○都立村山特別支援学校との交流、地域でのボランティアや、複数の部活動が地域での活動を実施した。
------------------------------	---

V 健康づくり

目標 1、中途退学者ゼロ 2、感染症のクラスターゼロ 3、行事での怪我ゼロ 4、体力の向上

方 策	教育活動の取組
① 特別支援教育コーディネーター、各学年、養護教諭、スクールカウンセラーの連携を図り、生徒支援委員会において、情報共有とともに、不登校、発達障害等での必要な支援策を講じる。生徒支援情報交換会を、学期に1回実施する。	○生徒支援委員会を隔週定例で年16回実施した。情報共有だけでなく、ケース会議も実施して生徒への積極的支援につながった。
② 支援の必要な生徒には、積極的に外部との連携を図る。	
③ 「学校いじめ対策委員会」を中心として、いじめや暴力のない学校生活を継続する	○いじめに類する行為は1件も認知されなかった。
④ 都の指針に基づき感染症対策を継続する。	○インフルエンザによる学級閉鎖があり球技大会を延期して実施した。2年修学旅行でインフルエンザ感染が拡大し、旅行後学年閉鎖となった。
⑤ 授業や特別活動を通してスポーツに親しむ態度を育成し、体力を向上させるとともに、体力テスト、球技大会や体育大会を怪我ゼロで実施する。	○授業や学校行事を通してスポーツに親しみ体力向上に取り組んだ。笑顔と学びの体験活動プロジェクトで、女子バレーボールのオリンピックによる講演や実技体験を行った。行事での大きな事故は起きなかった。

VI 募集広報活動

目標 1、本校第一志望者の増加

方 策	教育活動の取組
① 総務部が広報活動を統括し、計画に従って全校協力の下、広報活動を行う。	○総務部が統括して広報活動を実施した。外部での進路相談会等に昨年度より5回多く参加した。
② 学校Webサイトを最大限活用する。タイムリーな更新を行い、情報発信を充実させる。	○夏の学校見学会の参加組数は昨年度とほぼ同じであったが、保護者も参加可能としたので、参加人数は倍増し、保護者へもアピールすることができた。秋の学校説明会を1回増やし3回実施した。公式の学校Instagramを開設した。
③ 他校の仮設校舎を見学し、仮設校舎の懸念を払しょくする方策を講じる。	○学力検査の応募倍率1.25倍で、二次募集を回避した。
④ 授業公開、部活動体験、学校見学会、公開講座、施設開放等により、地域に開かれた学校を目指す。	○11月に土曜授業日を設定し授業公開を行った。 ○部活動体験は、各部活動で多くの中学生の参加があった。公開講座は、和太鼓を実施したが参加者が少なかった。施設開放でテニスコートの開放を行った。

VII 学校運営・組織体制

目標 1、企画調整会議と教科主任会議を軸とした一体的学校運営

方 策	教育活動の取組
① 教科主任会議を定例で実施し、教科の指導力を強化する。	○教科主任会議に進路指導主任が参加し、各教科への情報共有と、教科指導力の強化に努めた。
② 分掌が主体となって業務を計画し、分掌と学年が連携し、学年の差が無いよう3年間を見通した指導を行う。	○分掌主導で業務がかなり進むようになってきた。進路指導部と学年の連携が進んだ。

③ 必要に応じて主幹会議を開催し、管理運営機能を補完する。	○主幹会議は開催しなかった。
④ 会議のペーパーレス化と時間短縮により、業務の効率化を図る。業務の見直しにより、業務削減を図り、教職員のライフワークバランスを推進する。	○会議のペーパーレス化、会議録の電子化が浸透した。 ○校舎改築に関連する業務は純増で、業務削減は進んでいない。教員の時間外労働時間は横ばいである。
⑤ 生徒保護者との連絡、アンケートや提出物等、ネットワークを有効活用する。	○スタディサプリを利用した保護者への配信と欠席連絡、Teams の活用が進んだ。
⑥ 経営企画室が主体となって、分掌教科と連携し、適切に予算を執行する。施設設備を計画的に更新する。	○落差金等の補正予算編成で、概ね予算を執行することができた。予備用机椅子の次年度購入を計画した。
⑦ 校舎改築に向け、仮設校舎建設を都と連携し遅滞なく進める。引越しに向け、不用品を計画的に廃棄する。	○新校舎の詳細設計と、仮設校舎の詳細設計・工事を同時並行で進めた。 ○計画的に粗大ごみや不要薬品を廃棄した。

2 数値目標（過去3年間の推移）の自己評価

自己評価の基準：【A】十分に達成できた【B】概ね達成できた【C】あまり達成できなかった

※数値目標（過去3年の推移）

	項目	R 5	R 6	R 7目標	R 7	評価
I 学習指導	授業満足度 肯定的評価の割合 (%)	82.1	81.9	85%	86.7	↑ A
	相互の授業見学 (述べ回数)	146	183	129回	215	↑ A
	英検 受験者 (延べ人数)	596	810	850人	906	↑ B
	2級以上合格者数	34	52	60人	59	
	図書貸出冊数	1008	879	1100冊	1014	↑ C
II 進路指導	自宅学習時間平日平均 1年		19分	1時間	71.4分	↑ B
	2年		19分	2時間	70.3分	↑ C
	大学受験合格者数 国公立大難関私大	4	0	2人	1	↑
	GMARCH	12	6	12人	11	↑ } B
	日東駒専	58	45	50人	53	↑
	大学入学共通テスト受験者数	94	135	136人	131	↓ B
	1月全国模試平均偏差値 1年国数英	45.0	42.9	45.0	42.2	↓ C
	2年英(文理)	43.0	43.5	45.0	43.2	↓
	国(文)	46.1	44.2	45.0	45.2	↑
	数(理)	43.2	45.0	45.0	46.5	↑ } B
	2年国英歴 平均偏差値 50以上	33人	26人	30人	34	↑
	数英理 平均偏差値 45以上	7人	6人	8人	17	↑
	3年7月 国英歴 平均偏差値 50以上		28人	30人	29	↑ } B
	模試 数英理 平均偏差値 45以上		13人	15人	12	↓
夏期講習 講座開講数	35	42	45講座	45	↑ B	
参加者 (延べ人数)	348	1385	1500人	1591	↑ B	
保護者面談実施率	91.5	93.8	95%	97.5	↑ A	
III 生活指導	遅刻年間総回数	4183	4417	2000回未満	4608	↓ C
IV 特別活動・部活動	特別活動における満足度	91.9	91.6	90%	93.3	↑ A
	部活動における満足度		87.1	90%	91.3	↑ B
V 健康づくり	中途退学者	4	3	0人	1	↑ A
	体力テスト全種目			全国平均以上		
VI 募集広報活動	学校説明会来校者数 (組)	610	465	750組	462	↓ C
	中進対倍率	1.31	0.99	1.30倍	1.00	↑ C
	入学者選抜応募倍率 推薦	3.25	3.45	3.50倍	2.82	↓ C
	学力	1.33	1.00	1.30倍	1.25	↑ B
	Web サイト更新回数	338	492	350回	170	↓ B

3 課題と改善策

I 学習指導

- ・授業満足度が明らかに向上しており、授業力の向上に教科が主体となって取り組むようになってきた。相互授業見学だけでなく、進学指導研究校の「指名制による授業研究」や指導教諭の模範授業への参加を増加させる。
- ・ICT機器を活用した授業を多くの教員が行う状況となったが、一人1台端末を活用した授業や、AIを活用した授業は、ごく少数しか取り組めていない。主体的・対話的で深い学びに向け、さらに質の高い授業への工夫改善が必要である。全科目の生徒による授業アンケートは継続して組織的に実施する。
- ・英検の重要性を学校全体で認識できている状況となった。進路実現に有効であることを、更に生徒保護者に浸透させる。受験者・合格者の増加やスコアアップに向けて、授業内での英検に対応する内容を拡充し、講習も充実させる。
- ・図書貸出数は増加したがまだ少ない状況である。国語科、司書教諭と図書館専門員が連携し、国語科の授業とビブリオバトルを活用し、読書活動を推進する。
- ・自宅学習時間は定期考査2週間前の平日の時間を指標に変えたが、学習習慣はまだ身に付いていない生徒が多い。進路意識の向上とともに、全学年で定期考査2週間前からの学習時間の記録とフィードバックを継続し、自宅学習時間の増加につなげる。

II 進路指導

- ・1、2年生に対する指導や、保護者への情報提供がまだ十分ではない。1、2年次の指導計画を充実させ、生徒と同一内容を保護者へも情報配信し、保護者を巻き込み進路意識を啓発する。1年次からオープンキャンパス等に積極的に参加させるなど具体的な進路目標をもたせ、一般入試を視野から外さずに指導していく。
- ・年内入試の対応を進路指導部が主導して行い、一定の成果があった。大学入学共通テストは在籍の約半数が受験したが、2学期後半から授業欠席が増加し、進路決定者、一般受験者ともに特に2学期期末考査後の指導に課題が残った。学校の授業を第一にするような学校全体としての姿勢、教科・進路・教務・学年の連携が必要である。授業の工夫は必須で、一般受験の生徒を意識した授業や模試の活用を推進する。大学入学共通テスト後の講習の参加者を増やし、生徒の一般受験を支援していく。
- ・2年1月模試の平均偏差値が上昇傾向である。英語は昨年度より低い11月模試では高かった。模試分析会で各科目の分析がよくされており、教科を超えた情報共有もできてきた。次年度は進学指導研究校の取組で、模試分析会を公開で実施する。さらに模試分析会を充実させ、模試を活用して授業に生かし、生徒の学力向上を図る。
- ・1年は学力差が大きく平均偏差値の低下は予想されたが、危機感を持ち、上位層を引上げ、下位層もこぼれないようにする。模試分析で層ごとの中身をよく分析し、分析と対策を授業計画に反映させる。
- ・長期休業中の講習参加者数は増加している。講習優先の意識づけと講座内容・時期の見直しを毎年行い、講習参加者数をさらに増やす。
- ・「総合的な探究の時間」をPTで探究しながら実施してきたが、2年担当を21人にしたこともあり拡大探究PTでの伝達が不十分で、教員間の意識の差に課題がある。次年度は全学年を探究PTが主導し、各学年担任副担任が担当する体制で「総合的な探究の時間」を運営し、生徒の総合的な力を育成する。令和9年度は探究担当を進路指導部に移管する予定である。
- ・保護者面談実施率が向上し、保護者との連携が進んだ。次年度も、実施率97%以上（クラスで未実施1家庭以内）を目指す。

III 生活指導

- ・遅刻回数が減少せず、1時間目ギリギリの遅刻も減らない。遅刻指導を全校共通認識の下に行い、また、授業への意識を高めることで、遅刻を減らす。基本的な生活習慣を改善することで学習進路の基盤を安定させる。
- ・SNSに関係する問題行動が発生した。スマホの使用やSNSの使用について、HRや集会等あらゆる機会を通して指導していく。
- ・自転車事故が多く、救急搬送される事故が複数発生し、危機的な状況である。自転車通学に係る近隣からの苦情も増加した一方で、ヘルメット着用が定着しない。全校体制で指導を行い、ヘルメット着用率を向上させ、自転車事故によるケガ、近隣からの苦情をゼロに近づける。

IV 特別活動・部活動

- ・生徒の特別活動の満足度は90%を超えさらに上昇した。教員の行事委員会は廃止し、生活指導部が要項を早めに作成し、教員へ情報を早めに浸透させる。校舎改築工事に伴い、次年度は行事の時期や実施方法が変わるため、特に

体育大会は外部実施になるので、早期の要項作成と全校体制により実施していく。

- ・部活動の満足度が9割を超えた。グラウンド部活動が外部施設への移動が多くなるため、学習との両立ができるよう、時間管理に十分留意する。顧問だけでなく、部長会を通し、生徒への意識づけを徹底する。
- ・部活動の活動計画を整備し、生徒が主体的に考える活動を推進し、Webサイトでの発信を強化する。部活動を通して規範意識やマナーをはじめ人間性の育成に努め、合理的かつ効率的・効果的な活動を通して技能等の向上を図る。

V 健康づくり

- ・国外への転居を除く退学はゼロであった。生徒支援委員会の活動をさらに充実させ、必要に応じてケース会議を実施し、生徒支援情報交換会を各学期当初に実施し、生徒の変調の早期発見早期対応に取り組む。

VI 募集広報活動

- ・ホームページ更新回数は、学内からの更新のみに指標を変更し、年間を通しておおよそ2日に1回の頻度であった。ホームページや学校インスタグラムを通して、学校の魅力を発信し続ける。全部活動の活動計画をホームページに掲載し、情報の更新をさらに充実させる。仮設校舎の建築状況もプラス要素として発信する。仮設校舎建築、校舎解体の様子を画像で記録する。
- ・学校案内を、仮設校舎、新校舎の情報を取り入れたものに改訂する。
- ・今年度同様、次年度も学校説明会を3回実施する。うち1回を土曜授業実施として、土曜日午前の授業公開と午後説明会を開催する。文化・スポーツ等特別推薦実施種目の個別相談を計画的に実施する。
- ・外部の進路相談会等も積極的に参加する。

VII 学校運営・組織体制

- ・企画調整会議、教科主任会議を中心とした組織的な運営になり、月水朝の打ち合わせも定着し情報の共有もされてきたが、会議等ではないところでの意思疎通が足りなかったり認識の違いがあったりした。学校の方向性の共通認識をもち、学校運営を進める。
- ・学校運営連絡協議会において学校評価アンケートから、教員の言動に対する厳しい指摘があった。サービス事故防止研修の中で、都の重点課題とともに不適切な言動についての研修を実施する。
- ・教員の時間外勤務時間は横ばいであり、特定の教員の時間外勤務時間が非常に多い状況である。次年度、部活動の顧問数を多く（一人当たりの顧問数を増やす）し、部活動指導員の時間数を2.4倍確保し、部活動の負担の平準化を図り、ライフワークバランスを改善する。
- ・冬季休業中の仮設校舎への引越しに向け、引越準備委員会を設置し、不用品の廃棄と引越、仮設校舎の使用について計画的に進める。